

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立近衛中学校

4月18日(火)に、本校3年生108名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、本校の状況がまとまりました。本調査は、国語・数学・英語の3教科のテストと同時に、本校での学習状況、家庭での生活・学習環境を問う調査も実施されています。生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果(国語・数学・英語)

国語、数学、理科すべての領域において全国平均、京都府平均を上回っています。しかし、領域別、問題別では課題分析が必要です。

国語科より

全領域で全国平均を上回っていました。「知識・技能」については、おしなべて大きく上回っています。

「話すこと・聞くこと」については、他の観点より上回るポイントが低いため、根拠を明確にして表現するための工夫が望まれるところです。

数学科より

全国平均を上回っており、全体的によくできています。特に「関数」の領域は大幅に上回っていました。

観点の「思考・判断・表現」や問題形式の「記述式」では、全国平均を大幅に上回っていました。観点の「知識・技能」も、全国平均を上回っていますが、さらなる向上が望されます。

英語科より

全領域で全国平均を上回っていました。特に「聞くこと」と「書くこと」については大幅に上回りました。また今回タブレットを使用した「話すこと」については全国平均正答率を上回り、授業で行っているリスニングやペアワーク、ICTを活用したライティング活動が結果に表れています。

さらに、読解では平均を大きく上回るもの、引き続き長文読解の工夫が必要であるとおもわれます。

*前述の結果は、近衛中学校の平均です。返却された個々のデータを見ると、それぞれの課題が見えてくると思います。返却されたデータと問題を見比べ、どこに自分の課題があるのか、個人でも分析してみてください。また、正答でなかった問題に関しては、再度、チャレンジなどしてみると良いと思います。

生徒質問紙から

今年度の生徒質問紙での質問内容は大きく4つの項目があり、○学習意欲○学習方法○学習環境○生活の諸側面等に関する内容でした。本校生徒の主な回答内容についてお伝えします。

○学習意欲の項目について

教科に対する興味・関心はいずれの教科も京都府平均を上回る結果でした。特に数学は、全国平均・京都府平均のどちらも大きく上回る結果でした。興味・関心をもつことが、学力面においても平均を上回る結果と関連があることがわかります。また、「最後まで解答を書こうと努力した」の項目が特に全国平均を大きく上回って本校生徒の学習への意欲の高さがうかがえました。

○学習方法の項目について

「学校の授業時間以外にICT機器をどれくらいの時間使っていますか。」の項目では、京都府・全国の平均を大きく上回る時間を使っている結果が出ました。GIGA端末の普及や授業での取り組みが家庭での取り組み時間の増加になっているのではないかと思われます。

○学習環境の項目について

学習習慣はきちんと確立されており、普段からのご家庭のご協力がうかがえました。少し気になる点は「毎日同じくらいの時刻に寝ている」が全国・京都府の平均を下回り、睡眠時間の不安定さがうかがえました。また、「家庭での蔵書数」、「読書時間」、「新聞に目を通す日数」などが京都府・全国の平均を大きく上回っていました。読書、ニュースへの関心の高さと、普段の習慣や本の多い環境が本校生徒の学びへ向かう力の土台となっているのではないかと思われます。

○生活の諸側面の項目について

学校生活の様々な場面での「友達関係に満足していますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはありますか」では、京都府・全国平均を大きく上回っていました。学校生活の中での友人関係、幸福感を感じる行事・場面が多いと感じる生徒が多くいたようです。

少し気になる点として「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか。」の項目では、京都府・全国平均を少し下回っています。地域の行事への参加意識の向上や校外でのつながりを醸成する必要があると思われます。参加しやすく、幅広い興味を持てる行事へ参加機会を増やしていく必要があると思われます。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものではありません。学力は学校・家庭・地域での地道な積み重ねによって定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤になります。今後とも引き続き、「お子たちの健やかな育ち」と「学びの環境づくり」にご協力を願いいたします。